

# ネット系メロンの新品種 「デリカ」の品種特性と 栽培の事例

雪印種苗㈱ 西日本事業部  
技術顧問

河北 二人

新品種「デリカ」



## 1 はじめに

高度経済成長の波とともに高級果物といわれるメロンの大衆化が現実となり、しかも、周年需要の時代になりました。この裏には、昭和40年後半ころから多くの新品種が育成され、中でも栽培容易な複合耐病性や高糖度蓄積型の久交1~5号などの育成、温室メロンのアールスメロン系を育種素材とした高級感の優れた品種が続々と育成されてきたこと、また、栽培技術や施設化の発達で品種の特性を生かした作期幅の拡大と輸送手段や道路網の整備など全国各地に産地が生まれ、高級メロンの大衆化時代を迎えています。

ここに紹介する雪印種苗㈱育成のネット型メロンの新品種「デリカ」は、今、人気ナンバーワンのアンデスクラスのハウスメロンとして平成3年に発表したものです。特に、耐病性、低温伸長性、それに高優品率など優れた特性を持っており、必ずや、栽培者諸氏のご期待に沿える品種だと信じています。

以下、品種特性並びに栽培の実例など紹介いたします。

## 2 「デリカ」メロンの特性

### 1) 草姿

① ツルワレ病抵抗性を持っており、接木の必要はありません（自根栽培ができます）。

② ウドンコ病にも強く、栽培上問題はありま

せん。

③ 草勢は中位で、やや大葉で垂れ気味。朝顔葉の発生が早く、切り込みが深い。

④ 初期生育が極めて優れる。蔓は細めですが、低温伸長性が強く、半促成作型にも適しています。

⑤ 雌花の着生、着果性は極めて安定しており、ミツバチ交配が有効です（着果は非常に優れており、着果後5~7日目の早期摘果が必要です）。

⑥ 着果後の側枝（ひ孫づるなど）の発生と伸びは弱く、省力的で作業性が良い。

### 2) 果実

① 果実の肥大性はアンデスよりも2割程度は優れています。栽培条件にもよりますが、春作で1,500g、夏作で1,800g程度の大玉になります。

② 果形は正球~やや腰半球形でよく揃い、稜角果になりにくい。

③ 果皮は灰緑色で、完熟後も黄化しません。

④ 果梗（へた部）の離層形成もみられず、落果はありません。

⑤ 果肉は淡黄緑色（緑肉系）で厚く、3.5~4.0cmと厚肉。肉質は緻密で適度に締まり、輸送性と日持ち性が優れます。収穫後3~4日の追熟で適食期（メルティング質）となり、その後の可食期間も長く、市場性が優れています。

⑥ 青臭味もなく、食味がさわやかです。

⑦ ネットはビリネットですが安定しており、温度不足や乾燥・高温多湿などの不良環境下でもヒルネットの発生や裂果が非常に少ない。このた

め、不良果が少なく、優良品果率が高く安定しています。

⑧ 糖度は極めて安定しており、条件さえ整えばBXの16～17度は容易です。

⑨ 登熟日数は諸条件（温度、気温、日照および草勢など）にもよりますが、高温期の作型では50～55日、4～5月ころの早期作や11～12月の晩秋作では55～58日程度で完熟します。

### 3) 栽培のポイント

非常に安定した品種であり、栽培も容易で幅広い作型に適応します。より優れた果実を多く収穫するためには、次のようなことに留意して下さい。

① 熊本県のように早い作型（半促成栽培）で栽培するには、ハウス内地温は15℃以上、ハウス内夜温は最低10℃を確保できる装備または時期であること。

② 草勢は旺盛なため、窒素の施用量を10a当たり8～12kg（作型、地力条件でも加減する）を基準とし、地力度や季節などで加減すること。

③ より大玉を望むなら、着果節位を12節以降に高める。また、半促成作型で2番果採りをする場合には、本玉（一番果）着果後30日ころの着果とし、本玉の肥大や品質低下に影響が少なくなったところが望ましい。

④ 着果数は子蔓1本当たり2果（同時着果）を厳守しますが、早春作型でより大玉を狙う場合は株当たりの果数を更に制限します（写真1）。



写真1 1蔓2果連続着果



写真2 完熟期に達した「デリカ」、結果枝葉の黄化症状度と果梗部のリング状ネット発現

⑤ 地這栽培で特に注意を要する点として見逃してならない作業を挙げると下記のとおり。

◎ 摘果…鶏卵大のころ、良形果を残して早めに行うこと。

◎ 地這作はマルチビニールによる傷果発生防止のため、メロンマットを早めに敷くこと。

⑥ 収穫適期の判定は外観だけでは困難です。また、登熟日数だけでも問題ですから、登熟日数を目安に結果枝葉の黄化度（マグネシウム欠乏症）など、果梗（へた部）部のリング状ネットのまわり具合など総合して判定し、更に試し切りの上、順次収穫すること（写真2）。

### 4) 作型と適応性

低温伸長性が優れているため、九州など暖地の半促成無加温栽培に適します。果皮の黄化や果梗部離層の発達によるへた落ちがないことから高温期の栽培にも安定しており、広い作期幅を持っています（図1、2参照）。

## 3 「デリカ」の栽培事例の紹介

昨年、春作に試作した熊本県下益城郡松橋町砂川の高島幸次氏の事例を紹介します。

① 試作場所＝熊本県下益城郡松橋町南豊崎、水田（二毛作水田）。

② 品 種＝デリカ、アンデス（対照品種）。

③ 作 型＝半促成、連棟ビニールハウス無加温。

月 旬 作 型	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
ハウス加温		○ ○ — △ △ —	▼ ▼ —		♠ ♠ —				
ハウス無加温		○ ○ — △ △ —	▼ ▼ —		♠ ♠ —				
トンネル早熟		○ ○ — △ △ —	▼ ▼ —		♠ ♠ —				
トンネル(露地)			○ ○ — △ △ —	▼ ▼ —	♠ ♠ —				
ハウス抑制				○ ○ — △ △ —	▼ ▼ —	♠ ♠ —			

(凡例) ○…播種 △…定植 ▼…開花 ♠…収穫 (以下同じ)

図1 栽培暦 例I (北海道及び東北地方の例)

月 旬 作 型	12	1	2	3	4	5	6	備 考
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	
半促成栽培I型	○ ○ — △ ~ △ —	▼ ▼ —		♠ ~ ♠				熊本沿岸暖地
半促成栽培II型	○ ~ ○ — △ △ —	▼ ▼ —		♠ ~ ♠				中部平地

  

月 旬 作 型	7	8	9	10	11	12	備 考
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	
ハウス無加温抑制栽培	○ ~ ○ △ ~ △ —	▼ ▼ —		♠ ~ ♠			熊本県平地

図2 栽培暦 例II (熊本県の例)

表1 高島氏施肥例

(1,000m<sup>2</sup>/kg)

肥 料 名	総量	元 肥 追 肥 成 分 量						
		1	2	1	2	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O
農協有機園芸特1号 6-6-3	80	80				4.8	4.8	2.4
CDU複合燐加安S222 12-12-12	40		40			4.8	4.8	4.8
苦土入有機化成8号 8-8-8	40	40				3.2	3.2	3.2
燐硝安加里1号 15-15-12	20			20		3.0	3.0	2.4
B M ポーラス燐	20	20				-	4.0	-
水酸化マグネシウム	20	20				-	-	-
合 計 成 分						N-15.8	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> -19.8	K <sub>2</sub> O-12.8

注) アルカリ性土壌(pH7.0程度)

④ 播種期=平成2年11月20日(自根栽培)。

⑤ 定植期=平成2年12月30日(40日苗)。

⑥ 栽植様式=畦幅2.6m, 株間45cm, 1,000m<sup>2</sup>当たり854.7本植, 地這作り, 2本仕立。

⑦ 施肥=(表1のとおり)

⑧ 施設=間口6mの連棟パイプビニールハウス中二重トンネル被覆(生育初期), 夜間シルバー利用, 畦は全面マルチとした(写真3)。

⑨ 開花期=2月21~22日。アンデス2月24~。人工媒助。

⑩ 生育概要=4月12日調べでは,

○生育は概して良好。

○草勢はやや小振りでおとなしい。結果枝

が細かい。葉は大きい垂れる。朝顔葉が早くから発生し, 切り込みが深く特徴的である。○着果は非常に良い。雌花の子房は小さめだが,



写真3 熊本県の連棟ビニールハウス標準タイプ

当年の曇雨天続きの不良天候でも着果は非常に良かった。

○病害は特にアンデスと差はない。

⑪ 収穫調査＝平成3年4月21日、各区10株の調査を行いました。その結果は表2、3、4のとおりです(試作本数は約160株<75m畦1畦)。このうち、連続10株を最初から設定した)。

⑫ 日持ち性について

高島氏試作品を利用して、日持ち試験を行いました。

試験の方法は、平成3年4月21日収穫の「デリカ」およびアンデスをコンテナ容器に入れた状態で11日間社の作業場に放置後、切断して肉質の変化などを調査しました。

その結果は、アンデスは既に発酵し過熟となっていました、「デリカ」は完全なメルティング質となっており、可食に十分耐える品質を保っていました(写真4)。

⑬ 結果の考察

気象条件は最悪の年＝平成3年1月から4月中旬にかけての気象条件は近年にない悪天候に見舞

表2 果実(10玉)

品 種 名	10株当たり 収 穫 果	果 形			花痕径	ネット 密 度	1 果 平均重	肉 厚	糖 度 (BX)
		縦 径	横 径	比					
デ リ カ	42	11.68 cm	11.40 cm	1.02	2.27 cm	4.5	931 g	3.30 cm	15.27
ア ン デ ス	34	11.12	12.08	0.92	1.99	4.4	942	3.53	13.47

注) ネット密度＝密(5)～無(0)

表3 品 質

品 種 名	品 質 等 級 (%)				備 考
	秀品	優品	良品	外品	
デ リ カ	33.3	43.3	23.3	0.0	デリカは30玉平均、上物率(秀+優) 76.6%
ア ン デ ス	0.0	20.0	70.0	10.0	アンデスは10玉平均、上物率(秀+優) 20.0%

注) 開花から収穫までの日数は、デリカ＝58日、アンデス＝55日

表4 草 姿

品 種 名	本玉着果節位部葉			葉幅 × 葉長	備 考
	節位	葉幅	葉長		
デ リ カ	11.30 節	23.90 cm	19.15 cm	457.68 cm <sup>2</sup>	デリカは朝顔葉の発現が早い。垂れ葉。蔓は細い。
ア ン デ ス	13.15	21.48	17.76	381.48	アンデスは蔓が太く立性で、草勢が強い。



写真4 日持ち試験の記録写真

われました。特に、平年でも日照条件は北日本的で曇天が多い熊本県ですが、今年は特別に悪く、2月中下旬の雨続きに(-)5℃を割る寒波にさらされ、玉肥大期の3月上旬～4月中旬にかけては曇雨天続きによる日照と温度不足の悪天候続きに災いされて、着果不良、肥大不良、それに加え裂果に

ヒルネットと最悪の不作年となりました。反収は前年対比80%前後、品質は良品、外品、小玉が大半で大幅な収益減となりました。

このような最悪の条件下にもかかわらず、「デリカ」は着果も極めて順調に推移しました。以下、試作結果を整理してみました。

1) 生育状況

① 発芽＝極めて良好で、100%近く成苗となった。

② 苗の生育＝アンデスと特に差はなかった。

③ 定植後の生育＝初期の生育はやや旺盛で強かった。

④ 後半の生育＝ややおとなしい。

⑤ 草姿＝草姿は蔓が本蔓，子蔓，結果枝ともアンデスに比べて明らかに細い。伸びもややおとなしいように見える。葉は大きく，アンデスと異なり垂れ気味，葉柄も短めである。また，本葉10葉ころから明らかな朝顔葉となり，切り込みも深く特徴的である。草勢が弱いかに見える。

⑥ 花芽＝結果枝は極細であり雌花の子房も小さめである。開花はアンデスより同等かやや早い。

⑦ 着果＝人工媒助で極めて着果は良く，曇雨天続きの悪条件でも非常に良好であった（ミツバチ利用も効果的である）。

⑧ 玉の肥大と収量＝子房が小さめで心配したが，開花後6日目ころから順調な肥大を始め，30日目ころにはアンデスよりも大玉かと思えた。しかし，後半の肥大は着果負担が大きかったのか思うほどの伸びは見られず，アンデス程度にとどまった（着果制限をアンデスと同じにすべきだったと反省している）。収穫調査では，高島氏曰く，『「デリカ」はあまりにも揃って良果が結実したため摘果に戸惑い，1株2本仕立，1蔓当たり2果成り，つまり1株4果採りとした。アンデスは3果採りの標準とした』とか。試験としてはまずかったが，結果的には1球重で11g程度劣ったにとどまり，総収量では25%の増収となった。実際的に160株（1畦）当たりの収量比較では箱数で25%増収であったとの報告であった。

⑨ 品質等級＝ネットの強さは大差ない。裂果およびヒルネットの発生は「デリカ」にはほとんど問題となるようなものは見られなかった。アンデスは裂果と大割れのヒルネットが多発し，著しく商品性が低下した。

また，果形はアンデスは偏平果傾向が強かったが，「デリカ」は正球～やや腰高で稜角果もなく良く揃い，上物率も76%以上と優れていた。

⑩ 糖度＝「デリカ」の開花日が3日ほど早く，収穫日数は58日とアンデスの55日より3日長かったせいもあるが，糖度(BX)15度を上回り優れていた。

⑪ 食味＝肉質はアンデスよりやや硬めであったが，3～4日追熟すると非常に良質となる。特に，高島氏の奥様はネットメロンは大嫌いという珍しいお方だけど，『「デリカ」だけは青臭味がなく，おいしく食べています』と喜んでおられた。

⑫ 日持ち＝記録写真でも分かるように，収穫後11日間(5月2日)でも「デリカ」は可食可能で日持ち性はアンデスより2～3日間は持つと判断した。

⑬ その他＝病害の発生は菌核病と思われる蔓の枯れが160株中2株程度見られた程度，その他ではアンデスと差はなかった。収穫期ころの急性萎凋も特にしなかった。ただ，生育後半のひ孫蔓など側枝の伸びが少なく，アンデスに比べて3分の1程度にとどまり，本葉の受光態勢を損わず二番果採りの側枝整理作業など極めて省力的だと判断した。

#### 4 むすびに

「デリカ」の特性を十分踏まえた上，ネットメロンの基本技術を守って栽培すれば，低温期の早い作型から夏場の栽培，そして，秋作にと広い作型，地域に十分栽培可能な品種です。必ずや栽培される皆様に作りやすさと多収穫の喜びをもたらすことだと信じ，ご愛顧のほどお願い致します。

### お知らせ

☆本誌が昭和28年3月に第1巻・第1号の創刊号を発刊して以来，今年で39年目，第40巻を迎えました。創刊当時は紙質も粗悪で，活字体も古く，文章も旧かなづかいなど，まさに時代の流れを感じさせます。

☆ご覧のとおり，今月号より紙質およびレイアウトなど1部変更いたしました。

☆これからも，酪農畜産・園芸関係の技術記事や品種・製品の案内を通して，皆様のお役に立つような情報を提供してまいります。

どうぞお愛読ください。 (編集子)